

籾殻を熱源とした乾燥機でミャンマーのコメ品質向上に貢献

埼玉県の子農機が籾殻燃料炉と熱風型循環乾燥機の導入で JICA と連携

国際協力機構(JICA)は 9 月 2 日、埼玉県羽生市の金子農機株式会社(金子常雄社長)による、ミャンマー国における籾殻熱源乾燥機を使用した米収穫後処理の品質改善技術普及のための調査を「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として仮採択しました。

ミャンマーは農業が主幹産業であり、その中でも主食としているコメが主要農産物 20 品目中の約半分を占めています。近年、農作業の機械化により、コメの収穫量は増加しているものの、収穫後に行うコメの乾燥過程では機械化が進んでいないため、収穫後の処理において適切な管理が行われず、コメ粒が欠けるなどして商品価値が下がってしまう場合が多く、課題となっています。



乾燥機の熱源となる籾殻燃料炉



籾殻燃料炉で稼働する 10 トン容量のコメ乾燥機

今回、金子農機社が提案する「籾殻燃料炉」と「熱風型循環乾燥機」は、コメ収穫時に発生する籾殻を熱源としてコメ乾燥機を稼働させる技術であり、天候に左右されることなく短期間で大量のコメを乾燥させることが可能です。金子農機社はすでにベトナムやカンボジアに同機械を導入していますが、この度の調査で、ミャンマーでの本技術の活用と現地生産の可能性を検討し、同国のコメの品質向上を目指します。

本件は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012 年度から実施されており、2014 年度は本年 5 月に公示を行いました。176 件の応募のうち 26 件が仮採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。